

令和5年度第1回 豊明市障害者地域自立支援協議会 議事録

令和5年9月15日(金)

午後2時～午後4時

豊明市役所新館1階会議室4

事務局 皆さんこんにちは。一番過ごしやすい季節到来というふうにも思います。こういった中で、今年度第1回自立支援協議会をさせていただきます。令和4年度以前の内容は、コロナ禍のなかで1回しか開催できなかった。本来からいって2回開催することによって前進できていけるというふうに思って、今年度2回開催しますので、よろしくお願いいたします。

本日は議題1から6項目ございます。

議事の司会進行は加藤会長にお願いいたしますので、よろしくお願いいたします。

会長 まず議題の1でございます。令和5年4月から6月、相談支援事業所全体の相談の内容の報告、事務局よろしくお願いいたします。

事務局

障がい者基幹相談支援センターフィットです。

相談支援事業所相談員からの今年4月から6月にかけての相談の報告です。

個人情報に関わるものですので、会議後は必ず回収をさせていただきたいと思っております。

既存のサービスや社会資源では解決できない、困難ケースがとて多くなっているという印象を受けています。

まず、精神の障がいのあるいずれも福祉サービス等にはつながらない相談員が困っているケース。次のケースでは、就労継続支援B型事業所利用希望だが、就労アセスメントの事業所が市内では少なくなっているという意見が上がってきています。

また、療育が必要なお子さんのご両親の仕事の継続のための支援の充実をもとめる声、高齢の父と50代の精神の障がいのあるお二人暮らし、重層的な課題があるケース、特別支援学校卒業後、長年就労してきた会社でいじめられうつ症状となり退職となったケースで、就労に関する支援体制と、職場での障がい理解や合理的配慮についての啓発活動が地域課題という意見も出ています。

会長 はい、ありがとうございます。事務局から説明いただきました。今年4月から6月の相談支援の連絡会でも出された主な相談内容の案件でございます。この内容で何かご質問ご意見ございましたらお願い致します。

委員 資料のケースの方に、地域移行・地域定着支援というところで、精神と身体の複合の方で、精神科病院から自宅退院をされていますが、地域移行の調整が何もできずに帰ってきてから困りそうだが何も手が出せない、ということについてはどこに問題があって、なかなか進まないか教えていただけたらと思います。

事務局 ご質問ありがとうございます。この方の場合、病院のワーカーさんも退院後にむけて訪問看護や福祉サービスの導入を提案されたのですが、ご本人やご家族が必要ないですということで受け入れられず退院されています。入院中から、地域移行にむけて、病院さんや事業所などが連携していくという体制がもっと必要だと感じています。精神の障害のある方の地域生活を支える体制整備について取り組んでいかなければならないと思います。

委員 結局、ないまま退院されたってことでよかったですか。

事務局 そのまま福祉サービス等につながっていない状況なので、基幹相談支援センターからお変わりないか、ご連絡は差し上げるようにしています。

委員 はい、ありがとうございます。すごく大変なケースが本当に短い期間で相談支援の方が動いておられるという様子がわかります。こういった報告をしていただいて、地域のなかでどんなサービスが必要なのか、どんな社会資源があったらいいのか、重層的支援体制整備事業をどういう風に機能させていったらいいのかっていうような課題が見えてくると思います。なかなかこういった大きな会議の中では、具体的にどうしているのかっていうのは難しいと思いますが、そのあたりは部会でもう少し課題を掘り下げてそういった体制整備であるとか、新たな社会資源の検討とか、具体的に何かお考えになっていますか。

事務局 精神の方の支援体制を整えるために今年度精神科病院の相談員や認定看護師等と関わりのある機関で連絡会等をもちたい。定期的に情報や課題を共有できる場があると良いと思っています。

会長 ご質問がなければ、以上とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

それでは、議題の2に移らせていただきます。

事務局

令和5年度相談支援事業所ヒアリング訪問について報告致します。

目的としては、市内の相談支援の実情を把握することと、相談支援の質の向上を図るためのものです。市内7か所あり、今年度1回目を行いました。あらためて、8050世帯、介護保険の移行に関する事、重層的な支援の必要なケースが多いことが上がっています。そして、相談支援専門員が不足しており、福祉サービス利用希望が増えていますが、相談支援員の数は増えておらず、常勤の相談支援専門員ひとりで100件担当している方もいます。

福祉サービス事業所で相談支援事業所を併設してもらえるような声かけをしています。人材確保では、有料化となり受講者数が減った初任者研修修了者が増えるような仕組みの提案、連絡会や研修会を継続し、相談支援の質の向上を目指します。

会長 はい、ありがとうございました。資料2について説明いただきました。これについてご質問、ご意見ございましたらお願いします。

圏域アドバイザー 8月16日と9月1日に尾張東部圏域内でケアマネジメント講座を、25人の相談員に参加していただき開催しました。海部圏域でも合計13市町でお話ししています。先ほどの事例でいうと、問題というのは困り事とか悩み事で、課題というのは解決するための目標ということ。10年位前にはケアマネとか普通にできたが、今は見立てることができないという根本的な課題があり、人材を増やすもの必要だが、事業所の数が増えて、虐待防止の知識がないということと倫理がかけていたり、収益が一番となっていたりというところもある。人材を育てることに重点をおいていかなければならないと考えています。

会長 貴重なご意見ありがとうございました。それでは、議題3に入らせていただきます。資料3の福祉サービス事業所連絡会についてです。

事務局 コロナ禍で立ち止まっていた顔のみえる関係を復活し、事業所間の意見交換を行うことと支援の質を向上させるための研修を「虐待防止と意思決定支援」というテーマで講師に圏域アドバイザーに来ていただきました。参加者から具体的に意思決定支援についてよくわかり、今日からの支援に役立ちそうですという感想もいただきました。当日は急な天候不良のため安全面を考慮し事業所意見交換会の部分は中止となったため、とても残念だったとご意見もいただいております。今年度後期に事業種別での開催を当初の予定より早めて開催していこうと考えております。

会長 障害者事業所連絡会は11月でどうでしょう。ご意見ございましたらお願いしたい。はい、ありがとうございました。議題の4に入らせていただきます。

事務局 開設5年未満の障害福祉サービス事業所を対象に24か所訪問を行いました。このところ、うれしいことに事業所が増えてきており、特に就労継続支援B型事業所の開設が続いております。基幹相談支援センターとして、公平な立場での事業所情報の周知の協力や体形だった人材育成や支援の質の向上のための研修を続けていきたいと思っております。

会長 はい、ありがとうございます。資料4の中で説明をいただきました。これに対しまして何かご質問は。

委員 1ページ下のB型のビジネスモデルとして弱いとありますが、ビジネスモデルというのはどういう意味ですか。

事務局 リサーチとかそういうことがうまくできていなかったという意味合いで言われていたかと思います。

委員 事業所が増えてきて、支援の質の面で懸念される。

事務局 ここ 3 年程で倍に増えているという印象がある。福祉サービスがビジネスとして使われ始めているという感覚がある。少し前はグループホーム、その後は子どものデイサービス、ここにきてB型事業所が増えてきている。これだけ事業所が増えてくるということは、淘汰もされますし、利用者さんにとっては選びやすい状況になってきている面もある。経験を積まれた方や、各種事業をやってきた方、新たな事業所で質の高いサービスが提供できるようになるように、協議会で研修の機会をもち、勉強しあっていければいいかなと感じております。

会長 よろしいですか。

委員 利用者さんの障害特性について、あまりよくわからないところもある。自分勝手に何回も同じことをする方に対して1回言って注意して、次ダメだったら書面出して、それでもダメだったら退所勧告をするというような事例がある。契約があるので、普通はそのようなことはできない。

会長 ありがとうございます。

委員 介護保険は3時間、5時間というように報酬単価が設定されているが、B型はそうではないので、朝お弁当を取りにきてすぐ帰って行っても、一日過ごしても同じなので、専門性を高めて、どういう目的で、何のために自分たちが支援しているか。そのあたりは、給付の仕組みも課題なのかな。事業所が自分たちの専門性を高めていくためのインセンティブがないことも、大きな枠では課題なのかと思っています。

会長 問題提起として、ありがとうございます。議題5をお願いします。今年度名称を変えて、おとな部会、子ども部会とさせていただいております。資料5の1、5の2のおとな部会についてお願いします。

おとな部会 おとな部会の目的は、障がいのある方が地域で自分の力を発揮して生活するため、また親なきあとや緊急時にも滞りなく地域全体で支えられる体制づくりを構築することを目的としております。

目標として、一つ目が親なきあとや緊急時に備えた地域生活支援拠点整備の強化について取り組む課題の調査や意見をまとめております。二つ目が障害のある方が地域で自分の力を発揮して生活できるよう体制づくりのきっかけをつくるということで活動しております。6月に進路説明会、11月は成年後見の勉強会をあすライツさんに講師に来ていただく予定としております。

進路説明会は保護者の方9名出席。関係機関は学校関係や事業所や企業さんも含めて38名参加でした。直接事業所や企業がお話し、情報を深く知っていただけたが、保護者の方の質問の時間がもっとあると良かったことと、この情報が参加されていない方にもお届けしたいというのがこちらの思いでもありました。

委員 おとな部会は、親御さんが亡くなられた後、緊急のこととか、地域での生活のことについて課題をみつけてと取り組んでいるのですが、支援側の人がすごく分散されていて、人手不足がこのあとも続くと思います、そうなると思んなに分散されていていいのかということも課題かと思います。

事業所の職員が集まって勉強会をして人材育成をしていくというのは、オンラインも活用してすごく有効だと思います。

委員 進路説明会について、昨年の3月に要望があり、ぱっと開催できたというのは素晴らしいなと本当に思いました。学校で、育成会さんに来てもらい、先輩として、日常や社会で今のうちにどうしたらいいのかっていうことをお話ししていただいて、保護者の方は涙を流しなら聞かれておられた。協議会の構成のことに関わっていくんですが、子ども部会は学校教育から参加されているので、学校教育課を通じ市の小学校の通学生に伝えていただくと周知がひろがると思います。

事務局 今回は特別支援学校の保護者の方へご案内だったが、進路についての不安をもつてみえるのは、小中の特別支援級や通級の保護者の方も多いう意見をいただいているので、次回からは関心のある方に届くよう周知方法を工夫していきたい。

委員 障害のある人を雇用している企業ということで説明をさせていただいたが、障害者の方を雇用している企業を、大手も含めて、人事担当の方をどんどん呼んで、知ってもらえるようにしたい。この協議会で投げかけはできないものか。商工会でも話している。一歩きっかけというふうに動いてみたい。

委員 学校では就職には、どういうところができているか、どんな課題があるかと細かく一人ずつ把握し、例えば一般企業に就職するにはどのようなスキルがいるかという点までお話をしています。長く働くというためには、企業やお店で、どのくらい理解を求めていくかという点も我々の課題だったが、商工会の方がそう言ってもらえると大変心強い。

委員 実は先ほど言い忘れたことがありまして、厚労省の統計で、企業による虐待差別というのが増えています。雇用率の関係で、仕事はないが、受け入れるだけ受け入れているというところもある。就労に関する訓練や支援についての周知も必要。

会長 いろいろなご意見をいただきました。それだけ課題が山積みだというふうに思っております。では、議題5 資料5の3の子ども部会についてお願いします。

子ども部会 子ども部会では、主に三つの活動をとということで考えて進めております。

1つ目が、医療的ケア児と支援の協議の場の設置についてです。その事前打ち合わせを早期に行ったが、コロナの影響もありここ2年程協議の場が止まっていたが、愛知県医療的ケア支援センターが令和5年にできました。9月27日に医療的ケア支援センターの方にお越しいただいて、愛知県の状況ですとか、市の関係機関からの現状を報告させていただいて、今後に向けてどのように取り組んでいくかを話していきたい。

2つ目の取組みは、障害児支援事業者の交流会を9月19日に予定しています。20事業所

33 名の方に参加していただく予定になっています。

3 つ目は、先ほどから人材育成の話もありまして、学びの場を設置したいということで、研修をさせていただいています。

会長 ありがとうございます。それでは議題 6 の説明をお願いします。

事務局 福祉ガイドブックですが、平成 29 年自立支援協議会の部会で作成しておりましたが、情報が古くなっておりますので、新しく発行することになりました。完成しましたら、市役所と社会福祉協議会のホームページでアップさせていただきたいと思っております。

会長 では、議題の 6 を閉じさせていただきます。この内容で何かご質問ご意見ございましたらお願い致します。ありませんね。では、これまでの内容で何かご質問ご意見ございましたらお願い致します。

委員員 今年度 2 回目は具体的にはどんな内容を予定されていますか。

事務局 日中支援型共同生活援助の評価基準を作りましたので、その事業者を呼びまして、評価をするということが決まっております。そのほか、こういった部会の活動報告や未利用者調査の分析結果や地域生活支援拠点の評価をおとな部会でできればと考えておりますので、その評価報告なども考えております。

委員 いろんな関係者の方々が集まっている中で、いろんな目線で意見が出るというのが、この会議が本当に重要な会議なのかなと思います。支援者が集まらない、それでは集めるにはどうしたらいいかというような議論や、人材育成の研修計画を 1 年、2 年、3 年間でどうするか、そんな検討ができるかより一層いいのかな。市としてどのようにお考えかと。

事務局 持ち帰らせていただいて。

委員 それでいいと思います。持ち帰っていただいて検討していただくということは大事だと思いますので、そういうことが一つ一つ解決の一步になっていくかと思っております。

圏域アドバイザー 参考までに、草加市は相談支援の補助金をつける代わりに、市が主催する地区研修会に必ず出てくださいということでやっている。

会長 ありがとうございます。貴重な要望もいただきまして、ありがとうございました。それでは事務局お願いいたします。

事務局 以上をもちまして、令和 5 年度の第 1 回障害者地域自立支援協議会を閉会いたします。お疲れ様でした。次回は令和 6 年 2 月 16 日 14 時～16 時で予定しておりますので、よろしくをお願いいたします。以上です。